自：２０１４年４月　１日
至：２０１５年３月３１日

NCAJ
National Camping Association of Japan

事業報告書　2014

公益社団法人日本キャンプ協会

目　　次

２０１４年度事業総括 1

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業 2
1．キャンプアカデミーの実施
2．地域活動支援プログラム
3．グリーフキャンプの実施
4．出会いと体験の森へ事業
5．設立 50 周年記念事業に向けた取り組み
6．キャンプに関連する情報の発信及び相談業務
7．都道府県キャンプ協会の広報活動の支援
8．国外の情報の収集と提供
9．安全啓発キャンペーンの実施
10. 自然体験活動の場の提供と施設の運営
11. 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業 １３
1．指導者養成講習会の実施
2．指導者の審査・認定及び更新
3．ディレクター・ゼミナール 2014 の実施
4．課程認定団体研修会の実施
5．指導者養成のためのテキストの発行
6．都道府県キャンプ協会指導者研修会の実施
7．各都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業の承認・支援

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業 １７
1．Camp Meeting in Japan 2014 ～第 18 回日本キャンプ会議～の実施
2．定期刊行物「キャンプ研究」の発行
3．Café de CAMP の実施
4．グリーフキャンプに関する調査研究とその周知に関する事業

法人事務 ２２
1．諸会議の開催
2．ファンドレイジングの取り組み
3．Monthly Report の発行
4．都道府県キャンプ協会を対象としたアンケートの実施
5．各種団体等への協力・共催・後援
6．日常法人業務

CAMPING AWARD 2014 受賞者 ２６
公益社団法人日本キャンプ協会　2014・2015 年度　役員 ３０
公益社団法人日本キャンプ協会　2014・2015 年度　運営委員 ３１
事務局スタッフ・静岡県立朝霧野外活動センタースタッフ ３２

２０１４年度事業総括

2014 年度は、スコットランド独立住民投票が行われたり、ISIL(いわゆるイスラム国)が勢力範囲を大きく広げたりするなど、国民国家のような、これまで私たちが当たり前のものとしてとらえていた社会の枠組みでさえも絶対的なものではないと気づかされる出来事が多くあったように思います。否応なしに変化ということを強く意識せざるを得ない一年でした。

日本キャンプ協会としては、中長期的に必要となる大きな変化を十分に意識しながら、これまでの事業に改良を加え、着実に進めた一年であると言えます。

会報誌「CAMPING」は編集のあり方を検討し、参加できる人が限られる集合研修であるキャンプアカデミーの内容を再編集した特集を組むなど、有用な情報の共有をより強く意図した内容に切り替えました。

静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理者としての運営は、2007 年の運営開始から 8 年目となり、無事に第 2 期を終えました。この間、新規プログラムの開発や運営方法改善にも努め、外部評価委員会からも大変高い評価を受けました。次期についても指定管理者に選ばれ、引き続き 2015 年度からの 5 年間も運営を行います。

指導者養成制度については、キャンプディレクター1 級、キャンプディレクター2 級、キャンプインストラクターの 3 段階となり、課程認定団体におけるキャンプディレクター 2 級の養成が始まりました。この年度は 6 つの都道府県キャンプ協会、6 つの課程認定校での養成が行われ、合わせて 97 人が受講しました。また、キャンプディレクター1 級についても、前年度の倍以上となる 21 人が検定に合格しています。キャンプを企画運営し、都道府県キャンプ協会においても中心的な役割を担う立場となるキャンプディレクターの層が厚くなることは、今後の協会運営にとっても大切な変化だととらえています。

2016 年度の設立 50 周年記念事業に向けては、日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業組織委員会を立ち上げ、50 周年記念事業の基本的な枠組みを決めました。これを受け、2015 年度には準備をいっそう加速させ、50 周年にふさわしい、楽しく意義のある事業をつくりあげていきたいと考えています。

会員数の漸減などの厳しい状況は引き続きありますが、一方でキャンプディレクター資格取得者の増加や研究誌「キャンプ研究」への投稿の増加など、いくつかの明るい兆しも見いだすことのできた一年でした。こうした変化をチャンスとし、今後の積極的な事業展開につなげていきたいと思います。

2014 年度も多くの方々の力に支えられ、さまざまな事業を行えたことを感謝申し上げます。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業

キャンプを通じて社会貢献を行うためには、キャンプに関する具体的な知識経験を深めるだけでなく、現代の社会状況の把握や対象の理解も欠かせない。

この年度は、さまざまな社会的課題に対応するキャンプが幅広く行われるよう対象理解に役立つ内容の研修を行ったり、先駆的内容を含むキャンプ行うとともに、そこから得られた情報の共有を図る取り組みを進めた。また、キャンプの普及を図る事業が全国で行われるよう、各地での事業をバックアップする取り組みを前年度に引き続き行った。

１．キャンプアカデミーの実施

キャンプとキャンプの周辺領域に関わることがらを学ぶ機会として、「キャンプ指導者のためのリベラルアーツ」と題したキャンプアカデミーを開催した。

（１）キャンプアカデミー「キャンプ指導者のためのリベラルアーツ 2014」

「基礎的な教養」を意味する「リベラルアーツ」という言葉を冠したキャンプアカデミーをシリーズで実施し、「ジェンダー」「発達障害」について学ぶ機会をもった。

そのうち「キャンプとジェンダー」については、講習内容をベースに編集した記事を会報誌に掲載し、広く情報の共有を図った。

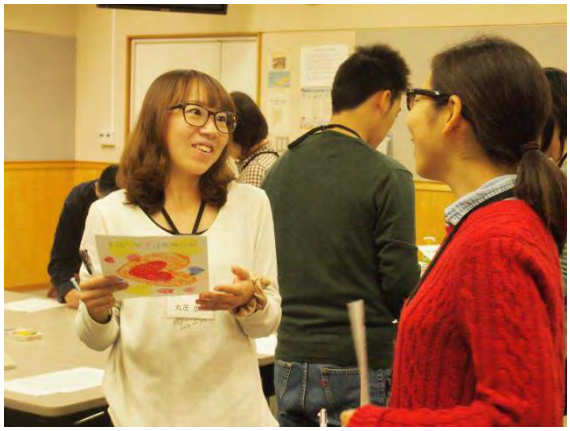
第１回「キャンプとジェンダー」

日　程：9 月 27 日(土)
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
参加者：18 人
※CAMPING 163 号に「誌上キャンプアカデミー　キャンプとジェンダー」を掲載。

第２回「発達障害」

日　程：11 月 29 日(土)
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
参加者：16 人

第１回　キャンプとジェンダー



第２回　発達障害

２．地域活動支援プログラム（広域的もしくは公益性の高い事業の実施支援）

社会的課題に応えるキャンプが広く行われるためには、地域に密着した活動が各地で行われ、広くキャンプに対する認知を高めることが欠かせない。そのような活動の普及を進めるため、地域ブロックを中心に行われた４つの事業について支援を行った。

団体名	日程	事業名	参加数
北海道・東北ブロック	10 月 4 日(土) ～5 日(日)	スキルアップセミナーⅡ	16 人
香川県キャンプ協会	9 月 13 日(土) ～14 日(日)	キャンプセミナー in かがわ	113 人
九州キャンプミーティング 2015 実行委員会 ※ 九州・沖縄ブロック各県協会等によって構成	2 月 21 日(土) ～22 日(日)	九州キャンプミーティング 2015	39 人
九州・沖縄ブロック	11 月 22 日(土) ～24 日(月・祝)	第３回 九州キャンプ大会 in おきなわ	63 人

３．グリーフキャンプ（悲嘆状態にある子どもを対象としたキャンプ）の実施

本会と公益財団法人日本 YMCA 同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団との共同プロジェクトとして、東日本大震災で大切な人をなくした子どもたち(朝日新聞厚生文化事業団の実施する「こども応援金」申し込み者)を主な対象に参加を募り、９月及び３月にキャンプを実施した。

SKY CAMP あさぎり 2014 秋（第５回グリーフキャンプ）

日　程：9 月 13 日(土)～9 月 15 日(月・祝)
会　場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
参加者：10 歳から 14 歳の男女７人
主　催：日本キャンプ協会　日本 YMCA 同盟　朝日新聞厚生文化事業団
協　力：静岡県立朝霧野外活動センター

SKY CAMP あさぎり 2015 春（第６回グリーフキャンプ）

日　程：3 月 28 日(土)～3 月 31 日(火)
会　場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
参加者：8 歳から 15 歳の男女 13 人
主　催：日本キャンプ協会　日本 YMCA 同盟　朝日新聞厚生文化事業団
協　力：静岡県立朝霧野外活動センター

本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄附金を用いて実施しました。

４．出会いと体験の森へ事業（他団体と共同で行う事業）

日本キャンプ協会、日本 YMCA 同盟、東京 YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟という「人を育てるキャンプ」に携わる団体が協力して「出会いと体験の森へ事業」を行っている。第 4 期は、なかなか知る機会のない他団体のキャンプをより深く知ってみようという趣旨で、ガールスカウトのキャンプを体験した。

※この年度の事務局は公益社団法人ガールスカウト日本連盟が担当

日　程：9 月 13 日(土)～9 月 15 日(月・祝)
テーマ：まるごと体験 ガールスカウトキャンプ in 戸隠
会　場：戸隠ガールスカウトセンター（長野県長野市）
参加者：23 人
※報告書は実行委員会 WEB サイトで公開　http://deai.camping.or.jp/reports.html

SKY CAMP あさぎり 2014 秋

SKY CAMP あさぎり 2015 春

出会いと体験の森へ事業「まるごと体験 ガールスカウトキャンプ in 戸隠」

５．設立 50 周年記念事業に向けた取り組み

設立 50 周年となる 2016 年度には、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ会議や第 21 回全国キャンプ大会などの要素を含む大規模なイベントを中心に、複数の特別事業を行うことを予定している。

50 周年記念事業組織委員会を行ったほか、2015 年度に具体的な準備を行うための各タスクチームの編成作業や海外とのやりとりを進めた。

アジア・オセアニア・キャンプ会議大会ロゴ

第 1 回設立 50 周年記念事業組織委員会

日　程：11 月 17 日(月)

会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業組織委員会名簿　（敬称略）

委員長	星野　敏男	公益社団法人日本キャンプ協会会長
副委員長	師岡　文男	AOCF 前会長・名誉顧問/ICF 理事(AOCF 担当)
委　員	田中　壮一郎	独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長
	島田　茂	公益財団法人日本 YMCA 同盟総主事
	川戸　れい子	公益財団法人東京 YWCA 代表理事
	奥島　孝康	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長
	浅野　万里子	公益社団法人ガールスカウト日本連盟会長
	井上　成美	一般社団法人日本ウオーキング協会常務理事
	山西　哲郎	公益社団法人日本オリエンテーリング協会会長
	加藤　元彦	公益財団法人日本サイクリング協会副会長
	水野　宰	一般財団法人日本ユースホステル協会理事長
	小西　亘	公益財団法人日本レクリエーション協会理事長
	吉田　章	一般社団法人日本オートキャンプ協会会長
	西澤　信雄	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会代表理事
	飯田　稔	日本野外教育学会会長
	斉藤　泰幸	日本アウトドアネットワーク(JON)運営委員長
	佐藤　初雄	NPO 法人自然体験活動推進協議会(CONE)代表理事
	針ヶ谷　雅子	公益社団法人日本キャンプ協会理事(50 周年事業担当)
	藤枝　隆	公益社団法人日本キャンプ協会地域連携委員
	金山　竜也	公益社団法人日本キャンプ協会事務局長・専務理事
監　事	村松　真哉	公益財団法人ハーモニィセンター事務局長
	宗像　弘行	一般財団法人日本ユースホステル協会総務課長
顧　問	永吉　宏英	公益社団法人日本キャンプ協会顧問
	石田　易司	公益社団法人日本キャンプ協会顧問／AOCF 副会長
	田中　祥子	ICF 前副会長／AOCF 名誉顧問

６．キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB やメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努めた。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に応じた。

（１）会報誌「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報やキャンプの現場で役立つさまざまなスキル、本会の事業内容等を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した（各号約 14,000 部）。この年度は誌面のリニューアルを行い、キャンプアカデミーの内容をベースに特集を編集するなど、他の事業との連動を意図した誌面づくりを進めた。

号数	特集
158	子ども中心
159	2013 年度事業・決算報告
160	突撃!となりのキャンピング
161	誌上キャンプアカデミー　スペシャル・ニーズ・キャンプの意義
162	この夏のキャンプファイアー
163	誌上キャンプアカデミー　キャンプとジェンダー

（２）WEB サイトを通じた情報発信

本会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知や報告、本会の団体情報などの各種情報を WEB サイト（http://www.camping.or.jp）を通じて提供した。

閲覧者数：のべ 164,291 人

（３）メールマガジン「CAMPING News」の発行

会員等の活動への参加機会を増やすことを目的に、BUC 事業を中心とする講習会やイベントの情報、助成金情報などを提供するメールマガジンを発行した。

発行回数：17 回（年末年始を除く 3 週毎の金曜日発行）
送 信 数：約 2,300 通（発行時により変動・別途 PDF 版を WEB サイトで公開）

（４）キャンプインフォメーションセンターの運営

キャンプに関する相談窓口として、電話や電子メールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、マスコミ等の取材対応を行った。

７．都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

都道府県キャンプ協会が会員等への情報提供を支援するためのサービスを提供した。

（１）会報同封サービス

各都道府県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、都道府県協会の会報等を「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数　27　　のべ発送点数　42,753

（２）メールアドレス及び WEB サーバーの提供

各都道府県協会にメールアドレスと WEB サーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、情報交換を容易に行えるよう支援した。

８．国外の情報の収集と提供

キャンプに関連する情報の収集を行うとともに、国際キャンプ連盟メンバーを中心に情報交換を深め、適宜、CAMPING やメールマガジン、Monthly Report 等を通じて情報提供を行った。

（１）第 10 回国際キャンプ会議 in トルコ

日　程：10 月 23 日(木)～10 月 27 日(月)
会　場：マルティム・パイン・ビーチ・リゾート（トルコ・アンタルヤ）
参加数：30 か国約 500 人・日本からの参加者 15 人

（２）アメリカキャンプ協会年次大会

日　程：2 月 3 日(火)～2 月 6 日(金)
会　場：ヒルトン・ニューオリンズ・リバーサイド（アメリカ・ルイジアナ州）
参加数：約 1,000 人（日本からの参加者 5 人）

９．安全啓発キャンペーンの実施

野外での安全について広く一般の方々にも考えていただく機会とするため、安全標語の募集を行った。この年から「キャンプの安全いろはかるたをつくろう！」として、「わ」から「む」までの 11 文字を頭文字とした標語を募集した。日本キャンプ協会設立 50 周年となる 2016 年には、キャンプの安全いろはかるたが完成する。

応 募 点 数：2,987 点
最優秀作品：「例年の行事であっても　慣れは大敵　安全キャンプ」　塚崎　てる子さん
優 秀 作 品：「ラッキーで済ますことなく　ヒヤリハットの教訓に」　筑田　正男さん

10. 自然体験活動の場の提供と施設の運営【静岡県立朝霧野外活動センター】

8 年目を迎えた朝霧野外活動センターの管理・運営は、指定管理第 2 期の最終年度にあたるため、これまでの指定管理業務の総括を行い、第 3 期の指定管理者指定を受けるために備えた。 9 月には指定管理者の公募が実施されたので、日本キャンプ協会グループとして引き続き指定を受けることを目指して申請を行い、平成 27(2015)年～31(2019)年の 5 年間の指定管理者となることが出来た。

各利用団体の規模が縮小している傾向があり、利用者総数は減少したが、利用団体数は増加しており、全体として安定した運営が行われている。外部評価委員会からも、引き続き「青少年教育施設としての役割を十分に果たしている」と高い評価を受けた。

また、前年度に光熱費高騰の影響を受けたので、照明の使用状況や浴室及び空調用のボイラーの運用管理を見直すなど、いっそうの経費削減を図り、安定した運営に努めた。

（1）受け入れ事業の支援

静岡県内を中心に幅広い地域の学校・青少年団体・青少年指導者団体・企業等の利用受け入れを行うとともに、その利用を効果的にサポートできるよう、実地踏査や打合せを通じた利用団体との十分なコミュニケーションの確保に努めた。

また、利用者支援のためには職員のスキル向上が不可欠であるので、職員研修を充実させた。救急法(Medic First Aid®)講習会の開催や静岡県青少年教育施設協議会合同職員研修会への参加等を通じて、スタッフ一人ひとりのスキルアップを図った。

（2）プログラムの整備

利用者に提供している各野外活動プログラムについて、周辺の環境の変化に合わせたコース変更と地図の更新を行い、活動の充実を図った。また、指導手順、運営手順、安全管理方法等の見直しも合わせて行い、それらの情報を活動ごとにまとめた冊子『活動プログラムガイド』を改訂した。

さらに、『野外活動実施時における安全対策マニュアル』の見直しも行った。利用団体が『活動プログラムガイド』とあわせて利用することで利用者の安全意識がより高まり、主体的に安全管理を行っていくことの大切さを感じられるプログラム運営ができるように配慮した。

（3）地域との協働

朝霧野外活動センターに隣接する富士丘地区をはじめ、近隣地域や施設との協力関係をさらに深め、新たに近隣の 2 つの小学校の学区に住む子どもたちに、放課後の居場所としてセンターのスケート場を開放する事業を試験的に実施した。この事業は、「あさぎりっ子スケートクラブ」として、2015 年度に継続して実施することとした。

さらに、地域の行事にも積極的に参加し、相互理解を図るとともに、地域の活性化に寄与することに努めた。

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月6日(日)	小学校5年生～中学校3年生	130名
	8月 6日(水) ～8月14日(木)		52名

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加数
野外活動プログラム実習	4月11日(金) ～4月12日(土)	利用団体の担当者・指導者	75名
	10月31日(金) ～11月1日(土)		15名
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月14日(土) ～6月15日(日)	専門学校生 短期大学生 大学生	15名
	7月12日(土) ～7月13日(日)		
	8月6日(水) ～8月14日(木)		
	10月18日(土) ～10月19日(日)		
野外教育指導者養成講習会	2月6日(金) ～2月8日(日)	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育関係者	17名

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧カーニバル	11月2日(日)	一般	4,208名
スケートフェスティバルinあさぎり	11月2日(日)・3月29日（日）	家族・小グループ	277名
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族・小グループ	2,394名
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日	家族・小グループ	2,904名

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
ちょっといい春感じませんか	4月19日(土)～4月20日(日)	家族・小グループ	126名
朝霧高原トレイルランニングレース	9月6日(土)～9月7日(日)	一般	727名
すてきな秋をあなたに	10月4日(土)～10月5日(日)	家族・小グループ	118名
オリエンテーリングin朝霧	11月8日(土)～11月9日(日)	家族・小グループ	293名
スケートキャンプ	12月12日(金)～12月13日(土)	家族・小グループ	48名
	1月16日(金)～1月17日(土)		47名
	2月20日(金)～2月21日(土)		53名
	3月6日(金)～3月7(土)		53名
２２３(ふじさん)ウォーキング	2月22日(日)	家族・小グループ	129名

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加数
ホッとキャンプ	3月3日(火) ～3月6日(金)	引きこもりがちな青少年	10名

その他受託事業

事業名	日程	対象	参加数
静岡子ども体験フェスティバル	10 月 9 日（日）	一般	400 名

利用者数の推移（施設全体）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2012	4,160	8,686	8,405	9,005	9,114	9,216	5,711	6,916	2,918	2,803	2,230	4,395	73,559
2013	3,101	8,633	8,525	9,541	8,610	9,513	6,433	7,282	3,789	2,771	1,749	4,712	74,659
2014	2,895	6,979	8,491	9,449	8,607	9,261	6,853	7,927	2,926	2,396	2,255	5,624	73,663
前年度比	−206	-1,654	−34	−92	−3	−252	420	645	−863	−375	506	912	−996

本館棟

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2012	3,864	5,660	5,322	6,071	5,553	5,807	4,312	5,941	2,399	2,230	2,057	3,840	53,056
2013	2,894	5,538	5,118	6,081	4,855	5,212	5,194	5,921	3,193	2,223	1,749	3,988	51,966
2014	2,709	4,129	5,457	6,049	5,061	5,002	5,154	6,547	2,367	1,905	2,095	4,742	51,215
前年度比	−185	-1,409	339	−32	206	−210	−40	626	−826	−318	346	754	−749

キャンプ場

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2012	296	3,026	3,083	2,934	3,561	3,409	1,399	957	519	573	173	555	20,503
2013	207	3,095	3,407	3,460	3,755	4,301	1,239	1,361	596	548	0	724	22,693
2014	186	2,850	3,034	3,400	3,546	4,259	1,699	1,380	559	491	160	882	22,446
前年度比	−21	−245	−373	−60	−209	−42	460	19	−37	−57	160	158	−247

参考　利用団体数の推移（施設全体）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2012	21	47	45	61	71	52	34	28	44	46	36	57	542
2013	16	53	50	78	60	53	35	36	51	42	30	65	569
2014	16	50	59	67	63	49	38	40	46	49	44	69	590
前年度比	0	−3	9	−11	3	−4	3	4	−5	7	14	4	21

朝霧高原サマーキャンプ～つながろう富士山～

すてきな秋をあなたに

平成 26 年(2014)度　静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会評価結果

総合評価　A　〔９段階評価　A⁺,　A,　A⁻,　B⁺,　B,　B⁻,　C⁺,　C,　C 〕

評　価　項　目		評価ポイント		
		26 年度	25 年度	24 年度
評　価　の　総　括		A	A	A
項目別評価	①少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A⁻	A	A
	②少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A	A	A
	④学校利用への適切な対応	A	A⁻	A⁻
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A	A⁻	A

(参考)

９段階評価ポイント記号の意味					
A	十分満足できる	B	おおむね満足できる	C	努力を要する
＊　心象としてABCに対して上回るか下回るかにより、必要に応じて＋－の付加記号を付ける。					

静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会
指定管理第 2 期(H22～26)期間評価結果

総合評価　A　〔９段階評価　A⁺,　A,　A⁻,　B⁺,　B,　B⁻,　C⁺,　C,　C 〕

評　価　項　目		評価ポイント
評　価　の　総　括		A
項目別評価	①少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A
	②少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A
	④学校利用への適切な対応	A⁻
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A

(参考)

９段階評価ポイント記号の意味					
A	十分満足できる	B	おおむね満足できる	C	努力を要する
＊　心象としてABCに対して上回るか下回るかにより、必要に応じて＋－の付加記号を付ける。					

11. 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布

安全で楽しいキャンプを普及させるため、(一財)日本宝くじ協会より助成を受けて全国の都道府県キャンプ協会に対してテントの配布を行った。これらのテントは都道府県協会が主催する各種講習会、指導者研修、キャンプなどで幅広く活用されるとともに、都道府県協会を通じて、加盟団体などが行うイベント等にも貸し出しされ、有意義に使用された。

配布件数：32 都道府県キャンプ協会　4 種 61 張

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業

キャンプの有用性・有効性を最大限に発揮させ、人々の心身の発展に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、本会発足以来の大切な事業である。

この年度は、キャンプディレクター２級の養成について制度の一部変更を行い、課程認定団体での養成が始まった。また、それにともなって必要となる旧資格から新資格への移行措置も開始した。また、有資格者のブラッシュアップをいっそう進めるため、BUC 事業の承認・実施に加え、キャンプ指導をより深く学ぶディレクター・ゼミナールを開始した。

１．指導者養成講習会の実施

キャンプインストラクター養成講習会（課程認定Ａ・Ｂ・Ｃ団体による実施）

都道府県キャンプ協会(A 団体)による養成数	567
課程認定校・社会教育団体等(B・C 団体)による養成数	2,133
合計	2,700

- 3,000 人の養成目標に対し 2,700 人の養成が行われ、達成率 90.0%であった。
- 昨年の 2,807 人と比較し、3.9%の減であった。

キャンプディレクター2 級養成講習会（A 団体による実施）

主催県	日程	受講数	会場
熊本	10 月 25 日(土)～10 月 26 日(日) 11 月 15 日(土)	6	熊本県立豊野少年自然の家
広島	11 月 1 日(土)～11 月 3 日(月)	6	広島市三滝少年自然の家
北海道	11 月 2 日(日)～11 月 3 日(月) 11 月 15 日(土)～11 月 16 日(日)	11	札幌市滝野自然学園
東京	11 月 22 日(土)～11 月 24 日(月)	20	ヒゲッチキャンプ場
奈良	1 月 10 日(土)～1 月 12 日(月)	12	国立曽爾青少年自然の家
大阪	2 月 6 日(金)～2 月 8(日)	5	吉野宮滝野外学校

キャンプディレクター2 級養成講習会（B 団体による実施）

団体名	受講数
北翔大学	23
日本大学文理学部体育研究室	4
国際自然環境アウトドア専門学校	5
福山 YMCA 国際ビジネス専門学校	2
桃山学院大学	2
仙台大学	1

キャンプディレクター1 級養成講習会

日程	受講数	会場
11 月 14 日(金)～11 月 16 日(日)	16	国立オリンピック記念青少年総合センター

キャンプディレクター１級検定会

日程	受検数	会場
1 月 24 日(土)～1 月 25 日(日)	21	国立オリンピック記念青少年総合センター

２．指導者の審査・認定及び更新

資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプ インストラクター		キャンプ ディレクター2 級※1		キャンプ ディレクター1 級	
	受験者数	合格者数	申請者数※2	合格者数	申請者数	合格者数
5 月 12 日			29 (4)	29	3※3	3
6 月 8 日			8 (3)	8		
7 月 7 日			2	2		
8 月 31 日			24	24		
11 月 5 日			28	28		
12 月 25 日			36 (1)	36		
1 月 9 日			5	5		
2 月 13 日			20	20	5	5
3 月 3 日			7	7	8	8
課程認定団体分	2,700	2,700				
合計	2,700	2,700	159	159	16	16

※1 キャンプディレクター２級の数字には、２級プログラムディレクター及び２級マネジメントディレクターからの移行分を含む。
※2 括弧内の数字は、MD(マネジメントディレクター)としての申請分。
※3 2013 年度合格者の申請分。

指導者資格の更新

キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター２級	キャンプ ディレクター１級	合計
4,803	1,730	1,149	7,682

※ 2013 年度　CI：4,828　D2：1,776　D1：1,154　合計 7,758

課程認定団体の審査・認定

審査会日程	新規課程認定団体名
6 月 8 日	B団体　大原簿記公務員専門学校　千葉校（千葉県）
7 月 7 日	B団体　明治学院大学（神奈川県）

課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
46	113	6

３．ディレクター・ゼミナール 2014 の実施

キャンプディレクター有資格者を主たる対象とする、グループワークや討論を交えた研修会を３会場で実施した。なお、本事業はキャンプディレクター２級資格の改変にともなう２級マネジメントディレクターからの移行のための集合講習と位置づけた。

ディレクター・ゼミナール 2014「キャンプの企画・運営」

北海道会場　　日　程：10 月 18 日(土)
会　場：北翔大学（北海道江別市）
参加者：12 人

福岡会場　　日　程：11 月 1 日(土)
会　場：福岡大学（福岡県福岡市）
参加者：14 人

大阪会場　　日　程：11 月 29 日(土)
会　場：大阪市社会福祉センター（大阪府大阪市）
参加者：25 人

４．課程認定団体研修会の実施

課程認定団体指導者養成担当者を対象に、カリキュラムにのっとった指導者養成が行えるよう研修を実施した。この年度は、課程認定団体で養成が行えるようになったキャンプディレクター２級養成に重点を置いた説明を行った。

日　程：5 月 24 日(土)
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
参加者：32 人（30 団体）

５．指導者養成のためのテキストの発行

指導者養成に用いるテキスト「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売管理を行った。

６．都道府県キャンプ協会指導者研修会の実施

キャンプ普及の直接的な担い手である都道府県キャンプ協会の活動を支援する目的で研修会を実施した。『都道府県キャンプ協会運営のてびき』を発行・配布したほか、NPO 法人 MAMA-PLUG 代表のロー紀子氏を迎え「防災ピクニック」の取り組みについて学んだ。

第１回　日　程：5 月 25 日(日)
　　会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
　　参加者：69 人

第２回　日　程：3 月 15 日(日)
　　会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
　　参加者：76 人

７．各都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業の承認・支援

スキルアップと交流の機会として本会及び都道府県協会が実施する事業のうち、所定の条件を満たすものを BUC(Brush Up & Communication)事業として認定し、必要に応じて事業実施のための支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数※
2014	128	1,480	44
2013	132	1,548	45
2012	134	1,534	42

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな取り組みについて知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。

この年度は、キャンプの研究や実践を持ち寄り、学び会う機会を複数の異なる形式で設け、重層的な情報提供が行われるように努めた。

1．Camp Meeting in Japan 2014 ～第 18 回日本キャンプ会議～の実施

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、指導者同士で有意義なキャンプ情報の共有が図れるよう交流の場として開催した。この年度は口頭発表に加え、「キャンプのあれこれ発表」と銘打ってワークショップ型の発表枠を設けた。

日　程：5 月 24 日(土)
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
発表者：20 人
参加者：79 人

内　容
［口頭発表］12 題

LEAVE NO TRACE の日本での必要性と普及について（徳田真彦）
組織キャンプにおける Leave No Trace プログラムが 参加者の環境に対する態度に及ぼす効果（椎名瀬梨菜）
ウィルダネス教育におけるウィルダネスの場についての検討 ～わが国での実践にあたって～（西島大祐）
キャンプカウンセラーのユーモア表出が参加者の集団雰囲気に及ぼす効果（梶原一貴）
大学野外実習が体力・メンタルに及ぼす効果に関する研究（田井健太郎）
キャンプの力はこんなところにも！～ストレス耐性を高める効果～（甲斐知彦）
ICU ジュニアキャンパス・キャンプ ～大学施設を使った大学らしい子どもキャンプの実践～（加藤綾音）
関東甲信越地区青少年施設協議会青年部会の取り組み ーアメージングガイドができるまでー（井上仁人）
災害時対策教育プログラムの実践について（藤枝隆）
環境ボランティアリーダー海外研修(ドイツ)報告（林健児郎）
東京 YWCA 森林ワークキャンプ～プロに学ぶ森づくり体験～（柳下史織）
国際ワークキャンプ参加報告と参加動機に関する調査（藤田花子）

［キャンプのあれこれ発表］4 題

『ハンディ気象観測ツール』によるアウトドア リスクマネジメント（渡辺直史）
アメリカ組織キャンプからの学び（三浦壮一郎）
続・キャンプで使える「手話」表現 ～目で見てわかるコミュニケーション～（針ヶ谷雅子ほか）
One Minute Camp Evaluation Experiential Education Evaluation Form 改訂版の体験（岡村泰斗）

［ポスター発表］5 題

キャンプの国際比較 その 1「日本型キャンプ」をさぐる 1-2 日本のキャンプスタイル（針ヶ谷雅子）
岡山県 A 大学におけるキャンプインストラクター養成実習の現状と改善策（古田康生）
地域のチカラを活かしたコラボレーション －通年型農業キャンプ 風っ子ファームの取り組み－（黛若葉）
南会津アドベンチャーキャンプの事業評価と地域連携（佐藤冬果）
青少年の体験活動等に関する実態調査(平成 24 年度調査)の報告（齋藤雄）

［全体会］特別講演 海外のキャンプ事情～日本の状況との比較から～（金山竜也）

2．定期刊行物「キャンプ研究」の発行

キャンプの実践報告やキャンプに関する研究報告を発表する場として「キャンプ研究 第 18 巻」を発行した。キャンプディレクター資格保有者に配布するとともに、PDF 版を WEB で公開し、多くの人が読めるようにした。

発 行 日：2 月 15 日

発行部数：3,500 部（別途 PDF 版を WEB サイトで公開）

※PDF 版　　www.camping.or.jp/JJCS182015.pdf

内容

研究論文	大切な人を亡くした子どものグリーフキャンプの実態と その効果に関する文献レビュー	髙橋聡美ほか
	キャンプ体験が被災地児童のメンタルヘルスと 生きる力に及ぼす影響	渡邉仁ほか
	ハンディ気象計による気象リスクマネジメントの可能性 ～トムラウシ山遭難事故(2009)報告書より～	渡辺直史
	民間野外教育事業者におけるヒヤリハットの分析	岡村泰斗ほか
実践報告	Frost Valley YMCA の価値教育	三浦壮一郎
	自然体験がキャンプ指導者の野外指導スキルに及ぼす効果	徳田真彦ほか
事業報告	グリーフキャンプ・フォーラム抄録 「子どものグリーフサポート～地域社会の役割・キャンプの役割～」	
	Camp Meeting in Japan 2014～第 18 回日本キャンプ会議～全体会報告 海外のキャンプ事情～日本の状況との比較から～	

3．Café de CAMP の実施

若手キャンプ指導者を中心に、講師を囲んで意見交換をしたり、アクティビティ体験をしたり、相互に事例発表等を行ったりする、交流と学び合いの場「Café de CAMP」を昨年に引き続いて実施した。

参加者の要望を取り入れながら事業を組み立てたほか、川崎市で子育て支援の事業を行う NPO 法人 MAMA-PLUG との共同事業も実施した。

回	日程	テーマ	参加者
1	6 月 28 日(土)	キャンプのはじめかた	7
2	7 月 5 日(土)	はじめましてのお食事会	11
3	9 月 27 日(土)	キャンプ　×　ボランティア	8
4	11 月 15 日(土)	キャンプの先輩に出会ってみよう	18
5	1 月 18 日(日)	公園で遊ぼう	14
6	2 月 11 日(水)	キャンプ　×　世界	28
7	2 月 21 日(土)	日本キャンプ協会×MAMA-PLUG 親子で楽しむ！ぼうさいキャンプ	41

（第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 6 回は国立オリンピック記念青少年総合センターで実施。
第 4 回は国際基督教大学、第 5 回は代々木公園、第 7 回はひばりっこくらぶ保育園で実施。）

４．グリーフキャンプに関する調査研究とその周知に関する事業

（1）グリーフキャンプ・フォーラム

「子どものグリーフサポート～地域社会の役割・キャンプの役割～」

子どものグリーフサポートについて理解するとともに、グリーフキャンプの可能性を考えるためのフォーラムを東京と仙台の２会場で実施した。

なお、本事業については広く情報提供するため、『キャンプ研究第 18 巻』に東京会場の内容の抄録を掲載した。　　※独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金助成事業

東京会場

日　程：11 月 9 日(日)

会　場：東京農業大学 横井講堂（東京都世田谷区）

参加者：59 人

仙台会場

日　程：12 月 7 日(日)

会　場：PARM-CITY131 ANNEX 多目的ホール(宮城県仙台市)

参加者：28 人

Café de Camp キャンプ×世界

Café de Camp 親子で楽しむ！ぼうさいキャンプ

グリーフキャンプ・フォーラム「子どものグリーフサポート～地域社会の役割・キャンプの役割～」

（2）先行事例の研究と情報の共有

北米を中心に広く行われているグリーフキャンプについて学ぶため、キャンプやキャンプ運営に関する会議に参加したほか、資料収集を進め、会報誌で情報の共有を図った。

El Tesoro de la Vida 視察

2013 年度に引き続き、Camp Fire USA First Texas Council が実施するグリーフキャンプ El Tesoro de la Vida に参加した。この年度は 6 歳から 8 歳など、低い年齢層の子どもたちの様子に特に注目して視察を行った。

日　程：7 月 26 日(土)～8 月 2 日(土)
訪問先：Camp El Tesoro(米国テキサス州)
参加者：2 人

資料収集と文献調査

グリーフキャンプの先行事例ならびに子どもを対象としたグリーフケアに関する資料文献の収集と調査を行った。

CAMPING 連載「Gift for the Next 100 Years」

グリーフキャンプ事業の報告や関連する事項をまとめた連載を CAMPING に掲載した。

号数	テーマ
160	SKY CAMP あさぎり 2014 春
161	El Tesoro de la Vida 2014 – Camp Fire USA, TX の Grief Camp 視察
162	SKY CAMP あさぎり 2014 秋
163	グリーフキャンプ・フォーラム 「子どものグリーフサポート～地域社会の役割・キャンプの役割～」

法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

１．諸会議の開催

会議名	回数	日程・会場等
総会	2	5 月 24 日・3 月 14 日
理事会	3	5 月 24 日・5 月 24 日(臨時理事会)・3 月 14 日
監査	1	5 月 15 日
執行理事会	6	5月12日・6月8日・8月31日・11月5日・12月25日・2月13日
ブロック会議	8	全ブロック　5月25日・3月15日　東京（NYC） 中部・北陸ブロック　8月2日～3日　富山県立山町 中国・四国ブロック　9月13日～14日　香川県高松市 近畿ブロック　9月20日　兵庫県神戸市 北海道・東北ブロック　10月25日　秋田県秋田市 関東ブロック　11月8日　山梨県北杜市 九州・沖縄ブロック　11月23日　沖縄県名護市

運営委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等
研修事業委員会	2	10月16日(東京体育館)・1月19日
CAMPING 編集タスク	3	5月26日・12月15日・3月23日
指導者養成委員会	2	9月18日・1月21日
Camp Meeting タスク	2	5月2日・10月7日
地域連携委員会	2	10 月 19 日・2 月 8 日(神戸市青少年会館)
総務委員会	6	5月12日・6月8日・8月31日・11月5日 12月25日・2月13日 (執行理事会と同時開催)
50 周年記念事業組織委員会	1	11 月 17 日

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
事務局会議	-	随時
出会いと体験の森へ 実行委員会	5	4月11日・6月4日・9月3日・11月18日・2月16日
グリーフキャンプ 組織委員会	3	6月26日・12月11日・1月23日
グリーフキャンプ 実行委員会	3	5月28日・7月28日・10月2日

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
所長会	10	4月4日・5月20日・6月18日・7月8日・9月4日・10月9日 11月13日・12月16日・2月5日・3月5日
主席会	4	4 月 9 日・6 月 13 日・10 月 10 日・2 月 13 日
県庁合同会議	1	4 月 4 日
安全対策委員会	2	6 月 18 日・3 月 17 日
外部評価委員会	2	6 月 22 日(期間評価伝達式)・2 月 23 日(評価伝達式)
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	1	11 月 6 日-7 日
静青施協合同職員研修会	1	1 月 8 日-9 日
地域懇談会	1	11 月 2 日
食堂定期協議会	2	7 月 20 日・3 月 13 日

2．ファンドレイジングの取り組み

ファンドレイジング・日本 2015 への参加

日　程：2 月 14 日(土)～15 日(日)

会　場：国際ファッションセンター（東京都墨田区）

3．Monthly Report の発行

理事、監事、運営委員、都道府県キャンプ協会事務局及びその運営に関わる方を対象に、本会の運営状況をはじめキャンプに関連する情報を提供することを目的に Monthly Report を月 1 回（計 12 回）発行した。

4．都道府県キャンプ協会を対象としたアンケートの実施

今後の運営の参考とするため、都道府県キャンプ協会の運営状況、課題などを把握するためのアンケートを実施した。

５．各種団体等への協力・共催・後援

協力・後援、協賛

団体名	事業名	種別
岩手県キャンプ協会	第 41 回キャンプインストラクター養成講習会 平成 26 年度親子キャンプ	共催
秋田県キャンプ協会	AKITA ファミリーキャンプフェスティバル 2014	後援
秋田県キャンプ協会	スキルアップセミナーⅡ	後援
秋田県キャンプ協会	チャレンジスノウキャンプ 2015	後援
(一社)宮城県キャンプ協会	はっちゃれキャンプ 2014	後援
(一社)宮城県キャンプ協会	スノチャレキャンプ 2015	後援
福島県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
(NPO)東京都キャンプ協会	東京キャンプフェスティバル 2014	後援
石川県キャンプ協会	いしかわキャンプフェスティバル	後援
香川県キャンプ協会	キャンプセミナー in かがわ	後援
九州キャンプミーティング 2015 実行委員会	九州キャンプミーティング 2015	後援
福岡県キャンプ協会	福岡県キャンプ協会指導者意見交換会	後援
福岡県キャンプ協会	福岡県キャンプミーティング	後援
鹿児島県キャンプ協会	平成 26 年度アウトドア活動セミナー	後援
(NPO)沖縄県キャンプ協会	第 3 回九州・沖縄キャンプ大会 in おきなわ	後援
(公財)日本レクリエーション協会	第 68 回全国レクリエーション大会 2014 福島	協力
(公財)日本サイクリング協会	東京シティサイクリング 2014	後援
(公財)日本サイクリング協会	Mt. FUJI エコサイクリング 2014	後援
(公財)日本教育科学研究所	アウトドアゲーム指導法研修会	後援
(公財)関西テレビ 青少年育成事業団	2014 年度リスクマネジメント・セミナー	後援
朝日新聞厚生文化事業団	ピア・キャンプ 2014	後援
(公財)修養団	第 9 回 SYD ボランティア奨励賞	後援
(公財)修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン(出張講座/課外授業)	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ	後援
(公財)修養団	東日本大震災仮設住宅訪問 青少年ふれあいボランティア	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
宮城県復興支援センター	国際交流イングリッシュキャンプ	後援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	第 30 回環太平洋学生キャンプ	後援

６．日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／収益事業の運営管理／助成金事務／人事管理／諸規定(程)の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

本報告書内の法人名・各人の役職等は、各事業実施当時のものです。

CAMPING AWARD 2014 受賞者

佐藤　正　氏

青森県キャンプ協会副会長

キャンプ指導者として、長年にわたって活躍されており、ボーイスカウト青森県連盟では 1973 年以来、役職に就き活動してこられました。また、全国で 44 番目の都道府県キャンプ協会として 2005 年 11 月に発足した青森県キャンプ協会では、発足時から 10 年にわたり、副会長として会の運営を支えておられます。

長年の経験を生かしたこれらの活動を通じて、現在も青森県のキャンプ、自然体験活動の普及、発展に大きな力を発揮しておられます。

（推薦団体：青森県キャンプ協会）

浅野　修　氏

宮城県キャンプ協会元副会長

1998年10月の宮城県キャンプ協会設立当初から理事として、2000年からの２年間は事務局長、2002 年から一般社団法人に移行した 2013 年までは副会長として、宮城県キャンプ協会の運営を支えてこられました。また、日本キャンプ協会の専門委員として「CAMPING」の編集にも携わり、県協会の事業を全国に紹介する機会を作ってきたことは大きな功績のひとつです。

一般社団法人の移行に際しては設立準備委員として定款等の作成に尽力し、副会長を退いた現在も後方から協会運営を支えてくださっています。交際の幅の広さ、他団体等との調整力の高さは、協会の発展に大きく貢献しました。

（推薦団体：一般社団法人宮城県キャンプ協会）

新島　邦彦　氏

群馬県キャンプ協会副理事長

少年時代からスカウト活動に参加し、成人後は指導者として活躍。その力が認められ、群馬県教育委員会主催の「長期フロンテイアアドベンチャー事業」や「ぐんま少年の船」の初回の実施指導者として任命されました。それらの事業において持ち前の力を発揮し、事業成功に結びつけ、その後 20 年間継続した事業の基礎を作った功績は非常に大きなものです。

県キャンプ協会においても再結成以来、理事として組織運営に活躍し、現在は副理事長兼事務局長として協会のまとめ役の重責を担っておられます。その姿は、若手協会員にとって目標となる存在です。

（推薦団体:群馬県キャンプ協会）

井上　忠夫　氏

千葉県キャンプ協会理事

長年にわたって多方面の野外活動の指導に携わり、順天堂大学在職中には、課程認定校の指導教員として、のべ 460 人のキャンプインストラクターを養成されました。

日本キャンプ協会では 1989 年から 2007 年までの長きにわたって専門委員を務めたほか、法人化準備委員会に参画し、現在の公益社団法人としての日本キャンプ協会の礎を築かれました。千葉県キャンプ協会では、1990・1991 年に監事、2014 年からは理事として協会の運営を支えておられます。

このほかにも、千葉県内の教育委員会主催の講習会講師を務めたり、各地の子ども会のキャンプ指導を行うなど、県内外のキャンプムーブメントの拡大に大きな貢献をされています。

（推薦団体:NPO 法人千葉県キャンプ協会）

西田　徹　氏　　東京都キャンプ協会Ｄ１クラブ副会長

東京都キャンプ協会Ｄ１クラブの発足当時からのメンバーであり、クラブ内の研修会では、その知識、経験を十二分に生かし、指導にあたっておられます。さらに、東京都キャンプ協会主催のキャンプフェスティバル等でも中心的な役割を果たし、参加者からの好評を得ておられます。

また、日本キャンプ協会発足時には設立準備委員として参画し、日本キャンプ協会の基礎づくりに大きな力を発揮されました。

60 年以上続けられているボーイスカウト活動では、さまざまな役職を歴任、また、地元の高輪地区防災ネットワーク代表として、地域の防災教育を住民と共に積極的に進めるなど、幅広く活躍されています。

（推薦団体：NPO 法人東京都キャンプ協会）

長谷川　清孝　氏　　愛知県キャンプ協会副会長

学生時代からのキャンプ指導及び運営の豊富な経験を生かし、名古屋市の教員で組織する「名古屋市野外活動指導者協会」で長年にわたってプログラム指導を行うとともに、野外活動施設に対するアドバイスも行い、小中学校キャンプの普及・発展に貢献し続けておられます。

愛知県キャンプ協会では 1985 年から 22 年間にわたり理事を務め、2003 年「第 13 回全国キャンプ大会」で広報担当委員長として大会を成功に導くなど、協会運営の舵取り役として欠かせない人物です。

卓越した指導力を示し、笑顔を絶やさない姿は、副会長として 4 年目を迎えた現在も愛知県における多くのキャンプ指導者の目標となっています。　（推薦団体：愛知県キャンプ協会）

金子　司　氏　　奈良県キャンプ協会副会長

大学時代にボランティアとして大阪府立総合青少年野外活動センターのキャンプカウンセラーを務め、卒業と同時に奈良 YMCA 野外事業部指導職として奉職されました。YMCA では幼年体育、日常野外活動、夏季キャンプ、冬季キャンプ等の担当を歴任、長年にわたって青少年の健全育成に力を発揮してこられました。現在は公益財団法人奈良 YMCA の代表理事・総主事を務めておられます。

奈良県キャンプ協会には 1998 年の発足当初から理事として参画、現在は副会長として、協会運営に多大な貢献をされています。　（推薦団体：奈良県キャンプ協会）

松島　瑞江　氏　　島根県キャンプ協会常任理事

1978 年から国定公園比婆道後(吾妻山)の教育キャンプスタッフとして活動を開始、1980 年代の文部省事業であった長期キャンプモデル事業や 1994 年の全国レクリエーション大会キャンプ部門の実行委員として企画・運営にあたられました。

小・中学校の養護教員としての豊富な経験をお持ちであり、安全管理やキャンプカウンセリングの指導において、島根県キャンプ協会にとってなくてはならない存在となっています。島根県おける女性キャンプ指導者の拡充に大きく貢献され、現在も常任理事として、インストラクター養成事業、BUC 事業等にも積極的に取り組んでおられます。　（推薦団体：島根県キャンプ協会）

大天　嘉行　氏

岡山県キャンプ協会長

1982 年に岡山県緑の少年隊指導者となったことをきっかけにキャンプ指導者資格を取得、岡山県におけるキャンプ指導者の先駆けとなられました。その後、県内の指導者の育成に努め、岡山県キャンプ協会の設立に尽力されました。

現在は岡山県キャンプ協会会長として、主催キャンプのすべてに参加するなど、協会の事業推進に大きな力を発揮されています。また、ほとんどの国際キャンプ会議、アジア・オセアニア・キャンプ会議に参加し、キャンプを通じた国際交流にも努めておられます。

（推薦団体：岡山県キャンプ協会）

大橋　光雄　氏

福岡県キャンプ協会会長

福岡市キャンプ協会の前身となる団体を作って後継者の育成に努めるとともに、福岡県キャンプ協会の黎明期からその組織化に力を発揮されました。福岡県キャンプ協会では事務局長、副会長を歴任、2007 年からは会長として協会組織の強化に尽力してこられました。この間、福岡県で開催された第 4 回全国キャンプ大会などの全国規模の大会では、実質的責任者として運営にあたられました。

現在も、九州各県の教育委員会や教育施設における講師として、日々、キャンプの普及、指導者養成に飛び回っておられます。

（推薦団体：福岡県キャンプ協会）

池永　祐二　氏

熊本県キャンプ協会会長

長年にわたり熊本市の野外活動にたずさわり、青少年の健全育成に情熱を注ぐかたわら、1996 年ころから休眠状態となっていた熊本県キャンプ協会の再建に大きな力を発揮されました。再始動にあたっては、旧理事会メンバーらに呼びかけて緊急発起人会を組織し、再建の中心的メンバーとして活躍されました。

熊本県キャンプ協会の再始動がかなった後は、5 期 10 年を理事長として、その後の 2 期 4 年を会長として、運営に采配を揮われました。

（推薦団体：熊本県キャンプ協会）

田中　祥子　氏

日本キャンプ協会元理事

1981 年から社団法人化を経た 1993 年まで理事を務め、現在の日本キャンプ協会につながる基礎づくりに貢献されました。特に、1987 年に設立された国際キャンプ連盟創設メンバーの一人として、日本と世界のキャンプに携わる人々を結びつけてこられた功績は、日本キャンプ協会にとって特別な意味を持ちます。

「キャンプを通じた世界の平和」という信念は多くの共感を生み、2014 年には国際キャンプ連盟がキャンプを通じた国際交流に多大な貢献を行った人に与えるアボット・フェン・ドゥルズーバ賞（Abbott Fenn Druzhba Award）を受賞されました。

（推薦団体：公益社団法人日本キャンプ協会）

石田　易司　氏

日本キャンプ協会顧問

1989 年から日本キャンプ協会の専門委員、理事、常務理事、専務理事を歴任され、2012・2013 年には会長を務められました。

長くキャンプディレクターを務めた朝日新聞厚生文化事業団・アサヒキャンプでは、自閉症児キャンプなどのスペシャル・ニーズ・キャンプに取り組まれ、その経験を生かし「シニアキャンプ」「認知症高齢者キャンプ」など、新しいタイプのキャンプを日本キャンプ協会の事業に積極的に導入されました。

同時に、こうしたキャンプにスタッフとしてかかわる若者の育成にも、ライフワークとして取り組まれています。

（推薦団体：公益社団法人日本キャンプ協会）

吉田　大郎　氏

日本キャンプ協会顧問

1998 年の日本キャンプ協会への入職以来、約 14 年間にわたって事務局長を務められました。その間には、第 5 回国際キャンプ会議のようないくつかの大きな事業が行われただけでなく、公益社団法人への移行、日本キャンプ協会グループによる静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理など、協会にとっての大きな変化もあり、それらの陣頭指揮に尽力されました。

また、朝霧野外活動センターの指定管理にあたっては、2007 年からの７年間、初代所長を務められました。そのうち５年間は事務局長との兼任であり、朝霧と東京の事務局を行き来する忙しい日々を送られていました。

（推薦団体：公益社団法人日本キャンプ協会）

CAMPING AWARD 2014 贈呈式

公益社団法人日本キャンプ協会　2014・2015 年度　役員

（2015 年 3 月 31 日現在）

名誉会長	酒井　哲雄	頌栄保育学院学院長
顧　問	斉藤　保夫	元・城西大学教授
顧　問	富岡　幸生	元・(一財)日本健康開発財団 専任講師
顧　問	野間口　英敏	東海大学 名誉教授
顧　問	長谷川　純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長
顧　問	野澤　巖	元・埼玉大学 教授
顧　問	永吉　宏英	大阪体育大学 教授
顧　問	石田　易司	桃山学院大学 教授
顧　問	吉田　大郎	元・静岡県立朝霧野外活動センター所長
会　長	星野　敏男	明治大学 教授
副会長	鳥井　信吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副会長
専務理事	金山　竜也	(公社)日本キャンプ協会 事務局長
常務理事	神﨑　清一	(公財)日本 YMCA 同盟 理事
常務理事	柴田　俊明	(社福)槐の会 職員
理　事	木村　公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長
理　事	佐藤　初雄	(NPO)国際自然大学校 理事長
理　事	高野　孝子	(NPO)エコプラス 代表理事
理　事	高橋　聡美	防衛医科大学校 教授
理　事	髙見　彰	大阪国際大学 教授
理　事	竹下　珠路	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
理　事	針ヶ谷　雅子	明治大学 兼任講師
理　事	平野　吉直	信州大学 教授
理　事	外山　眞理	(公財)東京 YWCA 青少年育成事業部統括責任者
理　事	佐東　治	山形県キャンプ協会 副会長（東北・北海道）
理　事	渡邉　忠	茨城県キャンプ協会 会長（関東）
理　事	村田　良紀	富山県キャンプ協会 副理事長（中部・北陸）
理　事	錦織　一郎	大阪府キャンプ協会 会長（近畿）
理　事	仲野　寛	島根県キャンプ協会 会長（中・四国）
理　事	宮里　勉	沖縄県キャンプ協会 理事長（九州・沖縄）

理事　以上　20 名

監　事	小田原　一記	(公財)日本レクリエーション協会 総務・経理チームマネジャー
監　事	村松　真哉	(公財)ハーモニィセンター 事務局長
監　事	井上　透	岐阜女子大学 教授

監事　以上３名

公益社団法人日本キャンプ協会　2014・2015 年度　運営委員

（2015 年 3 月 31 日現在）

研修事業委員会

今井　正裕	(一財)大阪府青少年活動財団 吉野宮滝野外学校部長
小森　伸一	東京学芸大学 准教授
月橋　春美	宇都宮共和大学 准教授
林　健児郎	(NPO)自然体験活動推進センター 理事長
引間　紀江	(独)国立女性教育会館 事業課ネットワーク構築・事業推進係長
柴田　俊明（担当理事）	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

CAMPING 編集タスクチーム

池畑　亜由美	順天堂大学 協力研究員
翠尾　由美	(公財)児童育成協会 職員
野口　和行	慶應義塾大学 准教授
林　健児郎	(NPO)自然体験活動推進センター 理事長
山梨　雄一	東京 YMCA 職員
吉田　理史	(NPO)信州アウトドアプロジェクト 代表理事
吉松　梓	駿河台大学 助教
柴田　俊明（担当理事）	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

指導者養成委員会

鈴木　由美	女子美術大学 非常勤講師
冨山　浩三	大阪体育大学 教授
中村　正雄	大東文化大学 教授
金山　竜也（担当理事）	(公社)日本キャンプ協会 専務理事

Camp Meeting in Japan タスクチーム

小森　伸一	東京学芸大学准教授
多田　聡	明治大学 教授
永吉　英記	国士舘大学 准教授
渡邉　仁	筑波大学 助教
星野　敏男（担当理事）	(公社)日本キャンプ協会 会長

地域連携委員会

川口　博行	山口県キャンプ協会
工藤　福成	大分県キャンプ協会
清水　勲夫	兵庫県キャンプ協会
田丸　良明	石川県キャンプ協会
藤枝　隆	(NPO)東京都キャンプ協会
村山　昌俊	新潟県キャンプ協会
神﨑　清一（担当理事）	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

総務委員会

神 谷　　稔	埼玉県キャンプ協会 理事
神 﨑　清 一（担当理事）	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

50 周年記念事業組織委員会（５ページ参照）

グリーフキャンプ組織委員会

大井屋　健治	(社福)朝日新聞厚生文化事業団 事務局長
神 﨑　清 一	(公財)日本 YMCA 同盟 理事
星 野　敏 男	(公社)日本キャンプ協会 会長

グリーフキャンプ実行委員会

太 田　正 義	常葉大学 講師
坂 本　昭 裕	筑波大学 教授
吉 田　大 郎	(公社)日本キャンプ協会 顧問
長 谷 川　孝	(一社)宮城県キャンプ協会 会長
福 田　年 之	(社福)朝日新聞厚生文化事業団 事業部長
山 根　一 毅	(公財)日本 YMCA 同盟 主任主事

事務局スタッフ

（2015 年 3 月 31 日現在）

事 務 局 長	金 山　竜 也	(全体統括・公２事業・公３事業・法人事務)
事務局次長	秋 山　千 草	(法人事務)
主　　事	吉 野　宏 美	(公１事業)
主　　事	前 田　将 太	(公２事業)
主　　事	五月女　真弓	(公１事業)

静岡県立朝霧野外活動センタースタッフ

（2015 年 3 月 31 日現在）

所　　長	太 田　恒 義	指 導 職	小 西　岳 勝
副 所 長	四 條　忠 男	指 導 職	小 西　和 希
コーディネーター	太 田　正 義	指 導 職	保 科　哲 也
事 業 課 長	櫻 井　良 樹	指 導 職	大 﨑　健 太
指 導 職	向 島　克 明	指 導 職	立 林　雅 貴

第 10 回国際キャンプ会議 in トルコ　2014.10.23-27